

3月11日に発生しました東日本大震災により
被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。
[被災者の方々へのサービスはこちら。](#)

第192号

web版 図書館しが

平成23年(2011年)7月1日 編集・発行：滋賀県立図書館

目次

特集 「図書館しが」に見る図書館の歩み	1
今月のBOOKマーク 「メールマガジンを登録してみよう」	6
FLASHフラッシュ 夏の催し物をチェック! ほか	8
今月のデジタルアーカイブ・湖国の本棚	10
郷土資料紹介	11

特集

「図書館しが」に見る図書館の歩み

創刊40周年

「図書館しが」が誕生したのは、1971年。8月15日号が創刊第1号でした。県立図書館が滋賀会館内にあった時代です。創刊当時は年2回の刊行でした。そこで今回は、特に70~80年代の記事を順番に振りかえりながら、「図書館しが」、そして県立図書館と読書の歩みを紹介します。



創刊~新館オープンまで(70年代)

「利用者座談会ひらく」(創刊号)

利用者12名を迎えて開催された40年前の座談会から、参加者の声をひろってみましょう。

「個人で買えない高価な本、個人で買うほどでもないがちょっと眼を通したい本、現在評判が出なくとも何年か先に必要になってくる本、そういう本の購入を希望します。」

「各官公署、会社事業場へ寄贈依頼をされたら、よい資料が集まるのではないか」「利用者の声を反映させるため、年



創刊号。当時の知事・教育長の言葉が1面。

1回くらいアンケートをとってほしい。」「レファレンスにもっと力を入れてほしい。」「文献目録類の分類、配架が分かりにくい。」「子供の読書の手引きを作ってほしい。」という利用者の声は、現在の記事と言っても通るほどです。図書館に求められるものの根本は時代に関わりないものだということがよく分かります。

ちなみに現在まで続くサービスのうち、レファレンスのための「調査相談コーナー」の設置や、コピーサービスがこの年から始められたことも同号記事中に書かれています。

利用案内（第3号～）

逆に、時代を感じさせるのが図書館の利用案内。「館内閲覧」は「カウンターの閲覧表に記入して閲覧していただきます。」また「館外貸出」を受けるため貸出券を登録するには、住所を確認するだけでなく印鑑が必要でした。記事中にはありませんが、貸出冊数はたった2冊。貸出よりも、館内閲覧中心の図書館でした。

また、現在は無い「移動図書館」「巡回文庫」「へき地文庫」「青少年文庫」などがありました。当時、県内の市町村立図書館は、彦根と水口の2館のみ（ほかに、私立（財）江北図書館と近江八幡図書館）。地域の図書館がほとんど存在しなかったため、貸出文庫（PTAや婦人会、青年団などの団体へのセット貸し）や移動図書館が読書普及の主な手段だったのです。

読書会が担った県下の読書普及活動（第6号ほか）

創刊2号に40グループをこえると紹介されていた読書グループですが、5年後の1976年、「滋賀県読書グループ連絡協議会」が発足する際にはそのグループ数は100近くにのぼっていたといえます（第13号）。県下の読書人口を広げるため、図書館でも「読書会の手引き」を作成するなど会の結成を後押ししていました。



それでは当時の記事を紹介しましょう。「この会合は、お金も受けのためでもなければ、虚栄のためでもなく、ひととき自分の人間性を回復するためのものです。」「とくに家庭の主婦の場合、日常の家事から数時間解放され、自己を回復してゆっくり考える時間でもあります。」（「読書会が成立するための五つの条件」/第6号）このように読書推進運動は、女性活動としての一面もあったようで、「読書会の主眼は、生涯にわたる読書によって、主婦として母として女性としての生き方の方向を自ら選ぶのに役だつ読書にありうと考えています。」（「展望…県下の読書グループ活動」/第2号）などという記述も見られます。

また、1960年、浅井町から県下に展開された「滋賀県本を読むお母さん運動」も、県下の読書普及運動の大きな柱でした。毎年の大会には、曾野綾子・山崎朋子・津村節子ら豪華な講師陣を招いての講演が行われ、「図書館しが」にも報告記事が掲載されています。

「駐車場めぐり」（連載 ※創刊号～）

駐車場って何の…？ 当時県内120ヶ所以上を巡回していた、県立図書館の移動図書館「しらゆき号」の駐車場です。初期の本誌には、ほぼ毎号この移動図書館の利用風景が綴られています。



賑わいを見せる移動図書館車

「ミニの若嫁さん、モンペ地下足袋の草刈り姿のおばさん、麦帽子のおやじさん」らさまざまな利用者が訪れる駐車場。ゴザが敷かれた利用スペース、本の整理などを手助けしていただく駐車場の責任者の皆さん、せまい車内にぎゅうぎゅう詰めで本を選ぶ子どもたち。職員もお茶を出していただいたりと、利用者お1人お

1人との距離の近さを感じる、心あたたまる連載です。

「県立図書館ができるまで」「滋賀県図書館小史」(連載 ※第7号～, 第8号～)

当時の平田守衛館長が手掛けた2つの連載では、滋賀の図書館の歩みを取り上げられています。連載当時、図書館が県立・私立を含め4館しか無かった滋賀県ですが、明治には公私立合わせて19館の図書館があったことが分かります。「書籍縦覧所」の開設と廃止、幻の市立図書館計画、戦時下で困難を極めた県立図書館の開館準備…。解説を読みながら掲載されている当時の各館の蔵書印を眺めていると、遠い時代の滋賀県民の書物への情熱が感じられます。

ちなみにこの連載は、その後の研究成果をプラスして『滋賀の図書館 歴史と現状』という書籍にまとめられています。当館でも所蔵していますので、是非一度ご覧ください。



新館オープン ～新しい図書館へ～ (80年代前半)

「県立図書館新館構想」(第20号)

県立図書館の新館構想が取り上げられたのが、1979年発行の第20号。完成予想図や平面図が掲載されています。新県立図書館の基本的な性格として、「1. 資料センターとしての機能

2. 参考業務の中心館としての機能 3. 文書館的機能 4. 市町村図書館に対する援助機能

5. 図書館未設置市町村に対する補完的機能」が謳われ、「一般の図書のほか琵琶湖をもつ本県にふさわしい特色ある図書館にするため、琵琶湖と水に関係ある資料や、県の歴史的遺産である古文書や古記録を備える」とし、水資料などはこの頃から集められたことが分かります。「この機会に広く県民の方々から「こんな本を備えてほしい」という希望が多く寄せられることを願っております。」(「新館に備えて図書整備」と書かれています)が、当時現在のようなリクエスト制度は無く、参考意見とされただけでした(リクエスト制度が導入されたのは新館オープン後)。

新館オープン…でも「図書館しが」はお休み？



オープン当初の一般資料室

不定期ながら、おおよそ年2回刊行されてきた「図書館しが」ですが、新館がオープンした1980年度は1回も刊行がありませんでした(新館オープンは同年7月)。開館1年後に刊行された第23号や、翌24号「図書館の案内」を見ると、「1ヶ年間の利用状況は、旧館時代の2倍以上になりました。」とあります。といっても、個人が借りられる本は、1回3冊。また「県立図書館の図書は身近の図書館で利用できますから、住所地や勤務地の図書館でご相談ください。」との記述が初めて現れています。

「新しい図書館 サービスと利用の手びきり」(連載 ※第23号～)

新館構想を機に、新しい図書館のあり方を模索していた県立図書館ですが、この号から利用者の皆さんに向けてのミニ連載が開始されました。

記念すべき第1回のタイトルは「座席を使う図書館から 本を借りる図書館へ」。

「むかしの図書館は、本を閲覧するところでした。」「特定の人だけが使うようなイメージがあり、勤め人とか、主婦、子どもたちが自由に入って本を借りるようなことは常識になっていませんでした。このために、入館する人は多くても、本を使い借りる人は少ない図書館でした。」「現代の図書館はそうではありません。誰もが本を借り、調べものをする所が図書館です。おとしよりから幼児

まで、みんなで使う、みんなの図書館です。」(第 23 号)

連載では順に「読書案内」「レファレンス」「児童へのサービス」「市町村立図書館へのサービス」と続いています。「みなさんが、読書案内をどしどし利用して下さることによって、図書館の本でどういうものが足りないか、どうすれば見やすく分かりやすい本の並べ方ができるかなどが、私たち職員によく分かるようになります。ですから、読書案内は、みなさんと私たちがお互いに助け合う、とても大切な仕事なのです。」(第 24 号)「電話でも手紙でも結構ですから、分からないことがあったら、図書館へお尋ね下さい。もし難しくて、お近くの図書館で答えられない場合は、県内の図書館が力を合わせることになっています。それでも難しい場合は他県の図書館の力をかりる場合もあります。(中略)十分満足のゆく対応ができるかどうか不安ですが、皆さんのお尋ねがふえることによって、態勢も整備されます。」(第 25 号)など、短いながら、これから新しい図書館を創っていくとする職員の意気込みが感じられる記事です。



新児童室オープン、コンピュータ導入 …新たな始まり、そして去りゆくもの(第 28 号ほか)



当時の児童室。カウンターが中央に

「わあ、おっきくなったあ」「あかるいね」…そんな子どもたちの声とともに紹介されている新児童室オープン(第 28 号)。1983 年に現在の場所に移動しました。この児童室で初めて、本にブックカバー(図書館の本をコートしている透明なフィルム)を貼り始めたことが書かれています(「近い将来、図書館の本全体がブックカバーのかかったものになるでしょう」)。前年に出た第 26 号では「“大活字本”をご利用ください」という記事も。この時点で 50 冊が購入されました。

1984 年からは第一期「Library Concert」も開始。

そして、1985 年 4 月には、「県立図書館レベルでは全国最初の」コンピュータ・システムが導入されました。第 38 号では、大々的にコンピュータの導入を告知しています。「市町村立図書館はじめ関係機関をふくむ図書館オンライン・ネットワークの構築」「蔵書に限定せず可能なかぎり新刊情報も含めた出版情報を網羅」「滋賀県に関する新聞記事や雑誌論文などの情報も対象」など特徴が紹介されています。導入後刊行された第 40 号のタイトルは「コンピュータ出発 でも、今までどおりご遠慮なく声をかけてください」でした。

一方、第 32 号では「さようなら! ほたるび号・しらゆき号」と題して、移動図書館車の廃止についての記事が。第 189 号の特集記事にもあった通り、県下の図書館建設等への補助制度が始まり新しい市町村立図書館が出来始めたこの時期は、地域の身近な図書館を通じての全県的サービス網が出来始めた時期でもありました。



すべての町に図書館を(80 年代後半~)

すべての町に図書館を（第39号～）

第40号「市民を信頼する図書館をつくりたい」で紹介された開館前の八日市市立図書館（現東近江市立八日市図書館）。第47号「息の長い図書館サービスを」の栗東町立図書館（現栗東市立図書館）は、オープン当日の盛況ぶりを報告した記事も（第53号）。第55号から掲載された「甲西町の図書館づくりを追う」（現湖南市甲西図書館）等、前述の補助制度を用いて県下に一つまた一つと、親しみやすく明るい新しい図書館がオープンします。

この時期本誌では、「すべての町に図書館を」のコピーと共に、新館の情報だけでなく、県内各地の利用者の図書館待望論等を次々と記事にしていきました。一例に第54号「いい図書館がほしいから！」志賀町（当時）の沢さんの記事を読んでみましょう。わが町にも図書館がほしいという思いから各地の図書館を巡られて、「いい図書館は何かこう人の心を和らげくつろがせ励ましてくれるような雰囲気があるものです。図書館は街の顔。同じ顔がないようにそれぞれの個性を持って建っています。」それは「その街の文化度、知的成熟度を表している」と書き、「私達の町にも図書館が建設されることを願って」文を終えています。ほかにも数多くの図書館を待ち望む人々の声が掲載されました。

県立図書館もお化粧直し（第61号～）

そんな中、県立図書館も少しずつ館内の模様替えを行っていきました。2階雑誌コーナーの新設、100万冊収蔵の地下書庫の建築工事、一般資料室・児童室それぞれが拡張や模様替えでリニューアルされ、滋賀資料室はレファレンス機能を拡充して参考資料室となりました。工事中の一時、滋賀資料室は1階に移動（第72号）、一般資料室が一時休室したことも（第78号）。その年に刊行されたすべての児童書を購入する「児童書全件購入」もこの時期はじまったものです。



今では収蔵能力の半分程度が図書で埋まる



そして現在まで

より良く、より深く

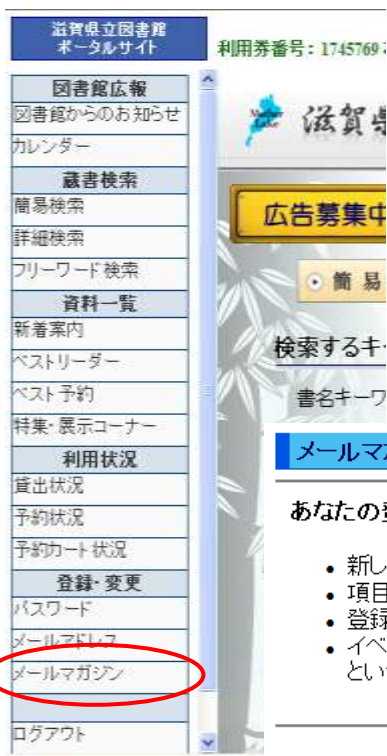
90年代に入ると、市町立図書館の開館ラッシュとなり、00年代半ばまで、毎年1～3館ものまちの図書館がオープンしていきました。本誌でも、毎号のように新図書館の状況をお伝えしています。地域にまちの図書館が根付いていくこの頃、県立図書館でも、洋書コーナーの設置（91年）・県内全域で資料の保存活用を図る「資料保存センター」機能の運用開始（92年）・館内検索端末の設置（95年）・1階ロビー貸出カウンターを設置（98年）・インターネットによるサービス開始（00年）など、どんどんとその機能を強化させていきました。本誌ではそんな新しいサービスをお知らせするほか、連載「図書館活用マニュアル」「いろいろあります図書館の仕事」など、「図書館にはこんな資料もありますよ」「こんな使い方も出来ますよ」といった、より図書館を使いこなすヒントになるような記事が多く掲載されていきます。

そんな「図書館しが」も現在はWeb版となりました。今後とも楽しく役立つ誌面を目指します！



1月から新しくなった図書館のホームページ。今号では、新サービス「メールマガジン」を紹介しします。上手く使いこなして、欲しい資料の情報をより早く確実に入手しましょう。

メールマガジンは、「インターネット個人サービス」メニューのひとつです。ご利用には、当館の貸出券とパスワードが必要です。まだパスワードをご登録いただいていない方は、貸出券をお持ちのうえ、カウンターへご請求ください。



まずは、トップページから、「インターネット個人サービス」ボタンをクリックし、貸出券番号とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンを押してください（詳しくは191号をご参照下さい）。

登録・変更メニューの「メールマガジン」（左図）をクリックすると、メニュー右側が下のような設定画面に変わります。

ここで、①イベント情報 ②新着図書案内メール（ジャンル別）
③新着図書案内メール（キーワード）の三種のメールマガジンを設定できます。

メールマガジン

あなたの登録している項目は以下のようになっています。

- 新しく項目を登録する場合は「登録」ボタンを押してください。
- 項目を修正する場合は「編集」ボタンを押してください。
- 登録済みの項目を解除する場合は「解除」ボタンを押して下さい。
- イベント情報以外のメールマガジンは、該当するものがない場合にも「該当件数が0件です」というメールを発送します。

- | | | | |
|-----------------|---------|-----|-----------------------------------|
| ① イベント情報 | (随時送信) | 未登録 | <input type="button" value="登録"/> |
| ② ジャンル(日本十進分類法) | (毎週金曜日) | 未登録 | <input type="button" value="登録"/> |
| ③ キーワード登録 | (毎週金曜日) | | |

登録済みのメールアドレスが、ここに表示されています。アドレスの登録がまだの方は、先にアドレス登録を済ませてください。

キーワード	登録日	編集
※未登録※		<input type="button" value="登録"/>
※未登録※		<input type="button" value="登録"/>
※未登録※		<input type="button" value="登録"/>
※未登録※		<input type="button" value="登録"/>
※未登録※		<input type="button" value="登録"/>

• 登録メールアドレス (チェックがついているメールアドレスのみに送信されます。)

<input checked="" type="checkbox"/>	○×△@librafone.jp
<input checked="" type="checkbox"/>	◎◇% @***.ne.jp

※メールマガジンを受け取りたくないアドレスがある場合、チェックを外し、「更新」ボタンを押して下さい。

①のイベント情報は、土曜サロン（コンサート、講演会など）や書庫探検隊など、図書館の催し物の案内メールです。登録はカンタン、「イベント情報」横の「登録」ボタンを押してください。「イベント情報を登録しますが、よろしいですか?」というメッセージが出たら、「OK」を押してください。「イベント情報」横の表示が「未登録」から「登録済み」になっていれば完了です。

②と③の新着図書案内は、1週間以内に当館で受入れした新着資料をお知らせするもので、毎週金曜夜にお送りしています。図書のジャンル別の案内を受け取りたい方は②のジャンル別を、ご自身で設定したキーワードが入った図書についてのみ案内を受け取りたい方は③のキーワードをご登録ください。

メールマガジン種類:ジャンル(日本十進分類法)

- ・ 分類を選択し、登録ボタンをクリックしてください。
- ・ 分類は日本十進分類に基づいています。

ご希望の分類をお選び下さい。(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 情報・コンピュータ	<input type="checkbox"/> 生物学
<input checked="" type="checkbox"/> 図書館・出版	<input type="checkbox"/> 医学・薬学
<input type="checkbox"/> 事典・年鑑・博物館	<input type="checkbox"/> 技術・環境・建築
<input type="checkbox"/> ジャーナリズム・全集	<input type="checkbox"/> 工学・インターネット
<input type="checkbox"/> 哲学	<input type="checkbox"/> 工業
<input type="checkbox"/> 心理学・倫理学	<input type="checkbox"/> 実用書
<input type="checkbox"/> 宗教	<input type="checkbox"/> 産業事業・農林水産
<input type="checkbox"/> 歴史	<input type="checkbox"/> 商業
<input type="checkbox"/> 伝記	<input type="checkbox"/> 運輸・交通・通信
<input type="checkbox"/> 地理・紀行	<input type="checkbox"/> 芸術学・絵画・写真
<input type="checkbox"/> 社会	<input type="checkbox"/> 音楽・演劇・映画
<input type="checkbox"/> 政治	<input type="checkbox"/> スポーツ・娯楽
<input type="checkbox"/> 法律	<input type="checkbox"/> 言語学・日本語
<input type="checkbox"/> 経済・財政・統計	<input type="checkbox"/> 文学論・日本文学
<input type="checkbox"/> 社会学・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 日本の小説・エッセイ

②のジャンル別案内は、「ジャンル(日本十進分類法)」と書かれた横の「登録」ボタンを押して設定します。

ボタンを押すと、左の設定画面に移りますので、好きなジャンル横の口をクリックしてレをつけてください。その後、ジャンル下の「登録」画面を押せば完了です。

ジャンルは滋賀県関係、児童書なども含め、42ジャンルから選べます。選んだジャンルの数だけメールマガジンが届きます。

③のキーワードは、全部で5つ登録できます。

「キーワード登録」と書かれた下の表の中から「登録」ボタンを押してください。右の画面に移ります。

キーワードは、本のタイトル、著者名、出版社名の設定が出来ます。例えばタイトルに「書道」と入った

図書が受入れされた際に案内が欲しいければ「タイトル」欄に「書道」と入力します。それぞれ好きなキーワードを入力した後で、下部の「登録」ボタンを押せば完了です。

特に複数のメールマガジンを受信される方は、「メールタイトル」にも、それぞれの区別がつきやすいように適当なタイトルを設定しておかれると便利です。

メールマガジン種類:キーワード登録

- ・ キーワードを入力して「登録」ボタンをクリックしてください。
- ・ メールタイトルは、メール本文中に記載されます。複数登録時にわかりやすいタイトルを入力ください。

メールタイトル:

タイトル:

著者名:

出版社:

メールマガジン使いこなしのコツ

★新着図書案内のメールマガジンは、週1回発行されます。たとえ該当する図書が無くても、「該当する図書は0件です」というメールが届きますので、ご了承ください。

★お手元に届くメール、特にジャンル別案内は該当件数が多くなると相当の文字数となります。また、メール内に貼られたリンクは、PC版のホームページが表示されるものです。携帯でメールマガジンをご利用いただく際は、文字数の条件やデータ通信料等にご注意ください。

★キーワードは、複数条件をかけあわせることが出来ます。かけあわせの方法は、蔵書検索の場合と同じです。「中国」と「文化」両方のキーワードがタイトルに入った図書を設定したい時はタイトル欄に「中国 文化」(中国と文化の間にスペースを空ける)、「宮部みゆき」か「東野圭吾」の著書についての案内が欲しい時は著者名欄に「宮部みゆき | 東野圭吾」と入力してください。

メールマガジンの設定は、いつでも追加変更・削除が可能です。
色々な設定を、どんどん試してみてください！！

FLASH☆フラッシュ

☆「住民生活に光を注ぐ交付金」で図書を購入しました☆

「住民生活に光を注ぐ交付金」とは、平成22年度の国の補正予算に計上された、地域活性化交付金のひとつです。今まであまり光があたってこなかった行政分野への交付金として、「知の地域づくり」や「弱者対策・自立支援」などの分野に対して支給されました。

図書館では、この交付金を活用して、約4,000冊の図書を購入しました。現在2階一般資料室のカウンター脇にコーナーを設けています。どうぞご利用ください。

また、大活字本や朗読CD、デージー図書（CD様のものですが、再生に専用の機械かソフトが必要です）などを充実させました。こちらも是非ご利用ください。

☆4月～6月の図書館行事報告☆



[4月16日（土） 太田典子氏講演会 ～子どもが本に出会うこと～]

近江兄弟社学園図書館長の太田典子氏をお迎えし、子どもにとって本との出会いがいかに大切か、そのために私たち大人に出来る事はなにか、実践を踏まえてお話しいただきました。ときに絵本を楽しむ子どもの気持ちになれた参加者は約30名。楽しく暖かい講演会となりました。

[5月4日（水・祝） みどりのつどい書庫探検 +チェーンソーアートライブ]

5月4日は、恒例の文化ゾーン「みどりのつどい」が行われました。当館では、普段入っていただけない書庫をたっぷり楽しんでいただく書庫探検を行いました。今年は『浅井三代記』などの和書のほか、初代安藤廣重による近江八景の浮世絵、『シーボルト旧蔵日本植物図譜コレクション』な



どの貴重書な資料も展示。80名のご参加をいただき、大変盛況に終わりました。

また、恒例の多賀町高取チェーンソーCLUBメンバーによるチェーンソーアートライブでは、出来上がった作品を、なんと観覧者にプレゼント！ じゃんけんによる争奪戦が繰り広げられました。

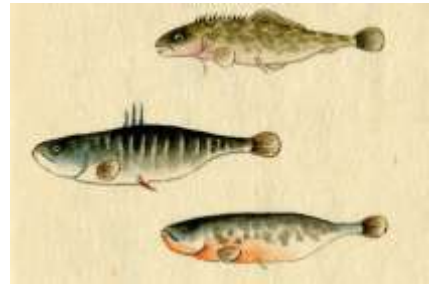


キャッピーも
来たよ！



〔 5月28日(土) 江戸時代の近江の国をデジタルで見よう 〕

5月の土曜サロンでは、当館職員によるデータベース「近江デジタル歴史街道」の紹介を行いました。江戸時代に刊行された琵琶湖の生物図鑑『湖中産物図證』など、「近江デジタル歴史街道」に公開されている近世近代の珍しい史料を取り上げ、その現物もご覧いただきながら見どころを解説しました。



〔 6月25日(土) 〕

講演会～災害ボランティアとは～ 〕

講師は、東日本大震災ボランティアセンターの運営スタッフを務められた藤田健介さん、横本雅幸さん。スライドを多数交えた現地の状況報告の後には、ボランティアの基本についてお話いただきました。あいにくの猛暑でしたが、20名余りの参加者の皆さんからは深い質問が次々に飛び出していました。

夏の催し物をチェック!

土曜サロン

8/20(土) 14:00~

講演会

「ブログを使って読書を楽しむ」

講師：藤沢 栄一氏

(滋賀咲くドットラボ)

8/27(土) 14:00~

おでかけ朗読公演

出演：山本 郁子氏(文学座)

いずれも1階談話室にて

9/18(日) 17:00~

吹奏楽団木曜組夕照コンサート

文化ゾーン内集合広場

子どもの行事

7/29(金) 8:30~、13:00~

「夏休み文化ゾーン子ども探検隊」

※事前申込制 応募多数時抽選

詳細は当館HPをご覧ください

8/10(水)

「しが統計キッズクイズ」

1階談話室にて

※滋賀県についての色々な数字をクイズで学ぼう!

(共催：滋賀県統計課)

8/13(土) 17:00~

「夕涼みおはなし会」

地下1階大会議室にて(予定)

8/19(金) 11:00~、14:00~

「おはなし会」 1階談話室にて

8月27日(土) 詳細未定

「夏休み昆虫相談会」

資料展示・パネル展示

7/21(木)~8/28(日)

「近江の街道」パネル展

2階参考資料室にて

7/29(金)~8/10(水)

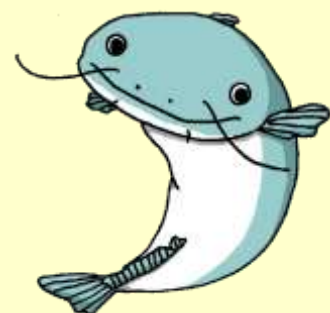
「滋賀県統計グラフコンクール特選作品展示会」

1階談話室にて

9/1(水)~25(土)

「同和問題資料展」

2階参考資料室にて



今月のデジタルアルバム帖

6・7月 「地図に見る戦前滋賀の農業水利」

日本一大きな湖琵琶湖を抱える滋賀県にとって、水の利用は古来より大きな課題でした。そのため、水利様式は多種多様で、滋賀県は水利様式の展示場といっても過言ではありません。6・7月のデジタルアルバム帖では、戦前の農業水利の様子を紹介しています。



8・9月予告

「近江の街道」(仮)

湖国の本棚

『足のむくまま 近江再発見』

國松巖太郎 // スケッチ 北脇八千代 // 文 新評論 2011年 (2, 200円+税)



本書は、毎日新聞滋賀版に2部3年にわたり連載されていた滋賀版の人気連載「足のむくまま」が元となったものです。連載の中から厳選された県内の隠れた名所・旧跡115ヶ所が、精緻なスケッチとお2人の対談で簡潔に紹介されています。

紹介されている場所は観光地ばかりではなく、「その土地土地にひっそりとたたずみ、それこそ注意しなければ見過ごしてしまうような社や石碑がほとんど」で、「この書を道標に、足のむくまま、気の向くまま、近江路をぶらぶらと歩けば、必ずや、これまで知らなかった湖国の魅力を再発見するに違いない」と、

あとがきに結ばれています。

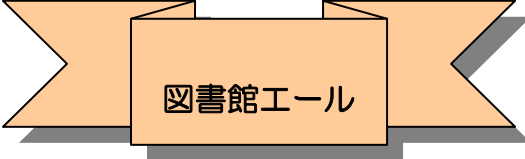
なお、今秋当館で國松氏のスケッチ展を予定しています。どうぞお楽しみに。

郷土資料紹介 平成23年3月～平成23年5月購入・寄贈分郷土資料紹介

- 近世琵琶湖水運の研究
杉江進著 思文閣出版 2011年
- 江の道
多田則明写真・文 アートヴィレッジ
2011年
- その時信長は、信玄・謙信は京への道
戦国武将年表帖 上巻
ユニプラン 2011年
- 無事の人たち
山村勉著 サンライズ出版 2011年
- お江
よねやま せつこ著 朝日新聞出版
2011年
- 西田天香の世界 2
西田天香著 一燈園生活研究所 2010年
- 見えない言葉が聞こえてくる
福井達雨著 いのちのことば社 2011年
- 吉良竜夫著作集 1
吉良竜夫著 鈴木英治[ほか]編
新樹社 2011年
- 近江は日本歴史の舞台裏
近江の歴史を語る会編・刊 2010年
- 織田信長が駆け抜けた道
舟橋武志著
ブックショップマイタウン 2010年
- 菜の花エコ事典
藤井絢子編著 菜の花プロジェクト
ネットワーク監修 創森社 2011年
- 武村正義回顧録
武村正義[述]・御厨貴編 岩波書店
2011年
- びわ湖百八霊場公式ガイドブック
木村至宏監修 淡交社 2011年
- 江と戦国の姫君たち
榎本秋著 イースト・プレス 2011年
- 滋賀県人物・人材情報リスト 2011
日外アソシエーツ編・刊 2011年
- 東アジア内海文化圏の景観史と環境
第1巻
昭和堂 2010年
- はあふ・とおん 第21号
詩の仲間 はあふ・とおんの会編集・刊
2011年
- 川道のオコナイ
中島誠一著 サンライズ出版 2011年
- 生命(いのち)の湖琵琶湖をさぐる
滋賀県立琵琶湖博物館編
文一総合出版 2011年
- 噂のつけ麺 2011
関西版(大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀)
麺喰倶楽部編 日本出版社 2011年
- 琵琶湖大明解 MAP 南湖
つり人社 2011年
- 電車と青春 2011
石坂線21駅の顔づくりグループ編・刊
2011年
- 雨森芳洲
上田正昭著 ミネルヴァ書房 2011年
- ふなずしの謎
新装版 滋賀の食事文化研究会編
サンライズ出版 2011年
- 彦根城の諸研究
海津榮太郎著 サンライズ出版 2011年
- 源氏物語の舞台を訪ねて
加納重文著 宮帯出版社 2011年

- 日本の街道 東海道(中山道(落合-草津))写真記録
写真記録刊行会編 日本ブックエース
2011年
- 戦国の世を生きた七人の女
由良弥生著 文芸社 2011年
- 江の生涯を歩く
桐野作人著 ベストセラーズ 2011年
- 足のむくま
國松巖太郎スケッチ 北脇八千代文
新評論 2011年
- 復元 小谷城
長浜み一な編集室企画・刊 2011年
- 赤備え
普及版 井伊達夫著 宮帯出版社
2011年
- 赤き奔河の如く
倉橋寛著 風媒社 2011年
- 地域のブランド戦略 滋賀県編
林廣茂編著
滋賀県地域ブランド研究会著 文理閣
2011年
- 京(みやこ)を支配する山法師たち
下坂守著 吉川弘文館 2011年
- 近江学 第3号
成安造形大学附属近江学研究所
2011年
- 見事に咲いて!と祈る十月桜
杉原正雄編著・刊 2011年
- 小谷城と城下をゆく
小谷城下まちめぐりウォーク
実行委員会編・刊 2010年
- 滋賀県地価マップ 平成22年
昭文社制作 滋賀県不動産鑑定士協会
2010年
- 甲賀市史 7
甲賀市史編さん委員会編集 甲賀市
2010年
- 傘遍路
村上しげとし著 花藻社 2010年
- 沓掛のあゆみ
沓掛字史編さん委員会編集
愛荘町沓掛 2010年
- 安土屏風
鈴木俊策著 個人書店 2011年
- 滋賀県立淡海学園創立100周年記念誌
滋賀県立淡海学園編・刊 2010年
- 近江日野の歴史 第8巻
日野町史編さん委員会編集 日野町
2010年
- 滋賀文学 2010
滋賀文学会編集・刊 2011年
- 長浜北高百年史
滋賀県立長浜北高等学校創立100周年
記念事業実行委員会編・刊 2011年
- 近江
近江川柳会 2011年
- あの山越えて 葫蘆島からの脱出
田村幸雄著
丸善京都出版サービスセンター 2010年
- レポート '10
滋賀県立高島高等学校編集・刊
2011年
- 近江神宮七十年小史
近江神宮社務所編集 近江神宮 2010年
- 平成12年からの10年史
大津市体育協会創立60周年
大津市体育協会編・刊 2010年
- 病院年報 第1号(平成21年度)
守山市民病院編・刊 2010年

- 未生御流
岡本芳村編集 未生御流出版部 2010 年
- 好日選集 12
好日選集 12 編集委員会編 好日社
2011 年
- 若狭海山の民俗
滋賀県立大学人間文化学部編集・刊
2011 年
- 石部・善隆寺墓地の調査
滋賀県立大学人間文化学部編集・刊
2010 年
- 古文書の語る 海津湊の歴史
第 1 巻・第 2 巻
マキノ古文書クラブ編著・刊
2009 年・2010 年
- 京阪百年のあゆみ[本編] [資料編]
京阪電気鉄道株式会社編・刊 2011 年
- 京都・滋賀にオープンした新店特集
122 軒
リーフ・パブリケーションズ 2011 年
- 地域資源活用農商工等連携
滋賀県中小企業団体中央会編・刊
2010 年
- ふるさと
木之本小学校創立百周年記念事業
実行委員会編集・刊 2011 年
- 新修彦根市史 第 10 巻
彦根市史編集委員会編集 彦根市
2011 年
- 甲良町古文書撰 上巻
甲良町郷土誌編纂委員会企画・編集
甲良町教育委員会 2011 年
- 閑田盧の詞華
山本稔編著 近江八幡市立図書館
2011 年
- 東近江市史能登川の歴史 1
東近江市史能登川の歴史編集委員会編
東近江市 2011 年
- 琵琶湖を制する者
滋賀県教育委員会文化財保護課編集
滋賀県教育委員会 2010 年
- 甲良の賜
甲良歴史文化友の会企画・編集
甲良町教育委員会 2011 年
- 西野水道と農民
成田勲夫著 サンライズ出版 2011 年
- 木部誌
木部自治会 2011 年
- 農と暮らしの記録
甲良町教育委員会郷土誌編纂委員会編
甲良町教育委員会 2011 年

The logo consists of a central rectangular box with the text '図書館エール' (Library Air) inside. This box is flanked by two stylized, ribbon-like shapes that extend outwards and upwards, resembling a banner or a pair of wings. The entire graphic is rendered in a light orange or tan color with a subtle drop shadow.

図書館エール

地震等被災者の方々へのサービスについて

3月11日に発生しました東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

滋賀県立図書館では、滋賀県で避難生活を送っておられる方々に対して、図書の貸出を行っておりますので、参考資料室カウンターでご相談ください。

また、被災地（青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県）からのレファレンスをお受けしています。内容は、滋賀県関係だけでなく一般的な質問もお受けしますので、生活上の困ったことなど何なりとお問い合わせください。なお、ご質問は電話、FAX、メールでお受けいたします。

滋賀県立図書館

【受付先】

〒520-2122

大津市瀬田南大萱町1740-1 滋賀県立図書館 調査協力課

電話 077-548-9691

FAX 077-548-9790

メールレファレンスのURL↓

http://www.shiga-pref-library.jp/d_reference/refnotes.html